

ケインズ学会 公開シンポジウム

# 多様性の宝庫としての ケンブリッジ学派



2019年

**3/31** 日 13:00 ~ 16:30

大阪府立大学 I-site なんば

大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル2階

対象 一般・学生 (定員50名:先着順)

事前申込  
不要  
参加無料

19世紀末から20世紀中葉にかけてケンブリッジで経済研究を行った集団である「ケンブリッジ学派」は、現代に多様な研究を残している。そこで、ケンブリッジ学派のアルフレッド・マーシャル、デニス・ロバートソン、ジョン・メイナード・ケインズの3人の経済学者を取り上げることにする。

ケンブリッジ大学の教授であったマーシャルとロバートソンの二人は現代経済学の基礎を築いたが、企業家や企業組織の研究も行い現代の産業や企業分析に多くの示唆を行っている。報告では彼らの企業論を明らかにしていく。世界恐慌の処方箋の書である『一般理論』を書き上げたケインズは、『確率論』の研究から第2次世界大戦時には戦費調達のためアメリカとの借款交渉と多くの業績を残している。ケインズの多様な研究について、報告では金融の側面からとデータ・マイニングの手法から明らかにしていく。

コーディネーター 近藤 真司 (大阪府立大学)

司会 松山 直樹 (兵庫県立大学)

西岡 幹雄 (同志社大学)  
「経済思想の中でのマーシャルの  
企業家像と株式会社の役割」

仲北浦 淳基 (同志社大学)  
「デニス・ロバートソンにおける  
企業組織と労資関係」

司会 西川 弘展 (大阪市立大学)

平井 俊顕 (ケインズ学会会長, 上智大学・名)  
「ケインズの対米借款交渉-「金融ダンケルク」に直面して」

小峯 敦 (龍谷大学)  
「ビッグデータ時代のケインズ『確率論』」

主催: ケインズ学会 <http://keynes-society.blog.so-net.ne.jp/>

共催: 大阪府立大学経済学会

後援: 大阪府立大学研究推進機構・大学史編纂研究所

問合せ先

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 現代システム科学域・経済学研究科支援室

☎072-254-7361 (ダイヤルイン) ☎Fax: 072-254-9925

<http://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20190331/>



南海電鉄「難波駅(中央/南改札口)」より南へ約800m  
地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」より南へ約1,000m  
地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅(1号出口)」より東へ約450m  
地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」より西へ約450m  
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。